

事業名：文部科学省研究開発学校
学校名：庄原市立庄原小・中学校
所在地：庄原市西本町二丁目13-1 (庄原小) 庄原市東本町一丁目26-1 (庄原中)
HP： http://www.city.shobara.hiroshima.jp/shobara/top.asp (庄原小) http://www.city.shobara.hiroshima.jp/kyouikugaku/shobara-jh/top.asp (庄原中)
学校規模：15学級 426名 (庄原小) 16学級 520名 (庄原中)

1 研究の概要

(1) 研究開発学校としての研究テーマ及び研究のねらい

①研究テーマ

教育活動全体を通じて小・中一貫したキャリア教育を推進する教育課程、及びキャリア教育で培いたい4能力領域を明確にした指導内容の研究開発

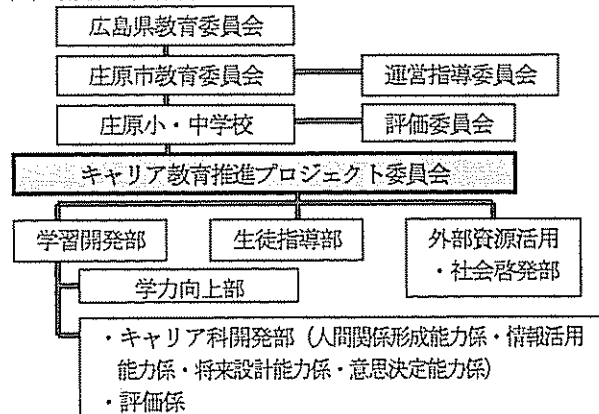
②研究のねらい

教育活動全体を通じ、発達段階に応じてキャリア発達を促す小・中9年間を見通した組織的・系統的なキャリア教育プログラムを研究開発するとともに、新教科「キャリア科」と他教科等との関連を図り、キャリア教育で育てたい力を明確にした教育実践を行う。

「キャリア科」は、各教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間におけるキャリア教育の視点に立った学習内容の一部や体験活動等を抽出し、地域社会や異校種間の連携を図って児童生徒一人一人のキャリア発達を促す教科として構想した。キャリア科は本校のキャリア教育を推進するための『エンジン』の役割を果たす教科として位置付けている。

キャリア発達を促すことで、学習の動機付けや自己効力感の高まりにつながり、学習意欲に満ち、夢や希望を持って自ら生き方を考え行動できる児童生徒の育成を図ることができると考えている。

(2) 研究組織・体制



☆キャリア教育推進プロジェクト委員会が研究推進の核となっており、小・中の管理職、主任等で構成され、毎週1回程度委員会を開いている。

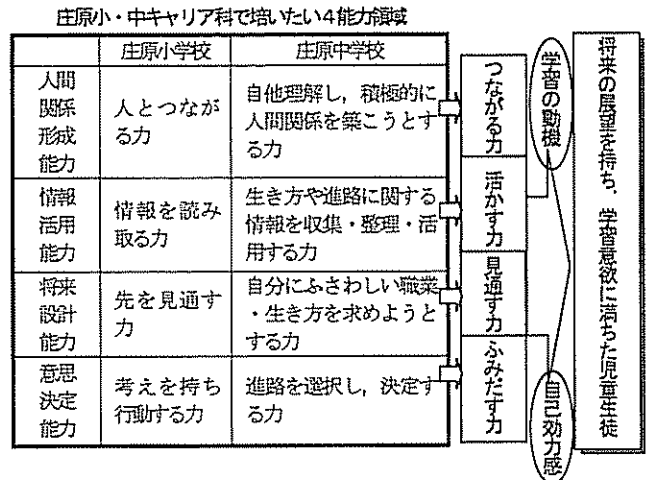
(3) 研究内容

①新教科「キャリア科」の実施・改善

小中一貫したキャリア発達を促す4能力領域それぞれの視点で系統性を持たせたカリキュラムを作成し、実践を行う。

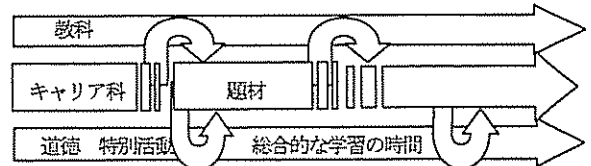
②「キャリア科」と他教科等との関連

各教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間で学習する内容を4能力領域の育成の視点からキャリア科の授業と関連付ける。



2 授業改善の視点

(1) 「キャリア科」と他教科等との関連



☆例 生活科とキャリア科との関連 (小学校第1学年)

キャリア科 <意思決定能力>

生活科

庄原小学校 1年生	学校の先生たちの仕事を調べ、自分たちの学級内の仕事をふり返る。 ----- 自分がした仕事をふり返る。	いそいそ	家庭での仕事を調べ、自分ができることに挑戦する。
--------------	---	------	--------------------------

(2) 小中の系統性を持たせたカリキュラムの作成

参考例：意思決定能力領域（課題解決能力）の目標・題材

小1	目標	自分のことは自分で行おうとする。
	題材	庄原小学校しごと見つけ隊 ～すすんでしごとをしよう～
小2	目標	行事へ目標を持って参加しがらぼうとする。
	題材	運動会をがんばろう ～わくわく運動会を成功させよう～
小3	目標	目標を持つことの大切さに気づく。
	題材	いきいき3年生係活動 ～係活動を工夫しよう～
小4	目標	高学年に向けて自分ができていることに進んで取り組む。
	題材	児童会選挙 立志式
小5	目標	委員会活動で自分のやりたい仕事、やれそうな仕事を選ぶ。
	題材	委員会活動～委員会の仕事を知り委員会を決めよう～
小6	目標	将来の夢や希望を持ち、その実現をめざして、今できることを努力することができる。
	題材	1年生をむかえるミニ集会を成功させよう ～課題を見つけ自分の力で解決する～
中1	目標	よりよい進路や生き方をめざして自ら課題を見出す。
	題材	職場訪問学習 ～職業調べを通して働くことについて考える～
中2	題材	職場体験学習 ～職場体験学習で学んだことをみんなで深めよう～
中3	題材	よりよい進路や生き方をめざして自ら課題を見出す。

- (3) 地域や異校種との連携を生かした発達段階に応じた授業内容の創造
- ・小学校 … 中学校や高校の生徒をキャリア・アドバイザーとして招聘、中学校とのジョイント学習
 - ・中学校 … 職場体験学習を中心とした地域との協働による総合単元的な授業づくり

(4) 体験活動の事前・事後指導の充実

- ・体験活動を柱とし、事前・事後において4能力領域をふまえた具体的な指導を実施

事前学習 … 体験活動の意味付けや価値付け
 事後学習 … キャリア発達の意識化（自覚化）

- ・ソーシャルスキル、構成的グループ・エンカウンター、教育相談などの心理学的な面でのアプローチ
- ・学級づくりや役割分担などの集団と個への関わり重視

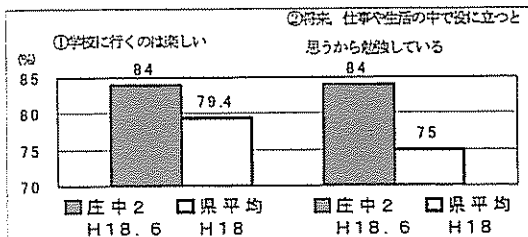
(5) 検証の視点の明確化

- ・児童生徒の学習に対する意欲や自己効力感に関するアンケートを実施し、単元ごと、学期ごとに児童生徒の変容を見取る。
- ・ポートフォリオの改善・充実を図り、児童生徒の記述内容をもとに4能力領域ごとの検証を行う。

3 研究の成果と課題等（第2年次）

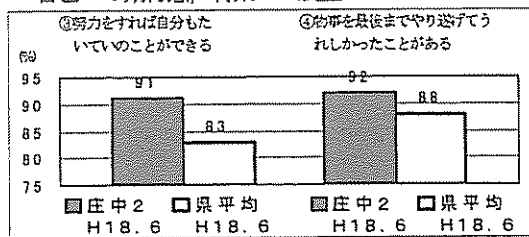
(1) 成果 [平成18年度「基礎・基本」定着状況調査より]

- ・①②からキャリア教育の取組みが学習の動機付けにつながっている。 → 学習意欲の高まり



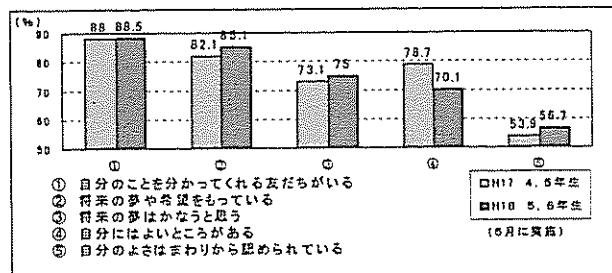
- ・③④から、自己効力感の高まりが見られる。

→ 自己への期待感、将来への展望



(2) 課題

- ・次のグラフから、学年が上がリキャリア発達が進むにつれて、現実を実感するため夢や目標が持てなかったり、かなわないと考える生徒が多くなっていく。



→ 中学2年生では、職場体験学習などを通して自信が持てるようになり、数値の上昇がみられた。このことから体験活動及び事前・事後指導の一層の充実を図るとともに、児童生徒一人一人の変容を継続的に見取りながら単元の有効性を検証し、取組みの精度をより高めていくことが必要である。

(3) 今後の改善方策等

- ・児童生徒一人一人の変容を見取る。(質的評価)
 - 評価計画の作成
 - ワークシートやポートフォリオの設問の工夫改善
- ・単元の有効性についての検証する。(量的評価)
 - 単元の前後に児童生徒の4能力領域それぞれの高まりを評価し分析
- ・キャリア発達と学習意欲の変容の関連について考察
 - 児童生徒の学習意欲の変容を継続して調査

4 実践事例

地域との連携を生かした「キャリア科」(庄原中学校2年生)
 ~キャリア・アドバイザーを生かした「キャリア科」~
 関連: 2 授業改善の視点 (4) 体験活動の事前・事後指導の充実

【職場体験学習の事後学習】

① 授業の目標

単元の目標

- 職場体験学習で考えた、働くことについての意味を、職業人の話を通してさらに深める。[意思決定能力]
- 人に教わるときの正しい態度を身に付ける。[人間関係形成能力]
- キャリア・アドバイザーの生き方を聞き「働くこと」の魅力についてまとめることができる。[情報活用能力]

本時の目標

- キャリア・アドバイザーによる職業アドバイスを主体的に受け入れ、活発に質疑し、仕事のおもしろさを共感することができる。

② 授業構想

- ・グループに分かれ、招聘した職業人から実技体験と講話を受ける。
- ・グループごとに用意した質問を行い、仕事のおもしろさや仕事への思いを引き出す。
- ・グループごとに学習した内容を他のグループに伝えられるように工夫をしてみよう。

③ 授業の実際

市内の病院から3名のキャリア・アドバイザー「医師、看護師、栄養士」に來校いただき、実技体験を行った。

④ 授業のポイント

【工夫1 質問内容】

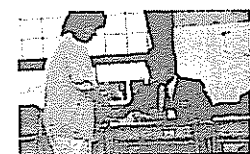
- ・4能力領域に関する質問内容を考える。
- ・仕事を支えている人たちの関わりに関する質問を考える。



眼珠の毛細血管を見る

【工夫2 追加質問】

- ・話を聴いて、さらにそれを深める内容の質問をする。



血圧を図る

【工夫3 まとめ】

- ・写真などを活かし、分かりやすく他者に伝える工夫をする。